県内自治体の地方創生担当者と国のコンシェルジュとの意見交換会

【主な質問等について】

Ｑ　観光についてワークショップを行った際､RESAS を活用した事例はあるが、正直、全ての職員が使いこなせているかは分からない。当市ではインターネットに接続できるパソコンが限られていることや、RESAS のデータは容量が大きく、ダウンロードに時間を要すことも難点となっている。

⇒Ａ　九州経済産業局では、RESAS に関する出前講座を行っており、依頼を頂ければ、△△市とその周辺自治体の情報を抽出した形で RESAS の活用方法を紹介するなど、身近に感じてもらえる出前講座を行っているので、活用頂きたい。

Ｑ　現在、過疎化地域では人口減少が進み、バス等の利用者も減少している。運営している民間企業等に補助金を入れて事業を成り立たせている状況であるが、更に利用者が減れば、運営自体が困難になってくる。交通弱者支援について、国の政策の方向性を教えてもらいたい。

⇒Ａ　方向性については、国土交通省の交通政策審議会の方で検討しており、今後、最終とりまとめに向けて、議論が行われることとなっている。

Ｑ　人材不足、人材育成で課題を多く抱えている。課題解決に繋がるアドバイスがあればお願いしたい。

⇒Ａ　人材不足等の課題に対応するため、鹿児島労働局では、鹿児島県をはじめとする県内自治体と「雇用対策協定」を締結しており、未締結の自治体についても、申出があれば協定を締結することは可能である。国が持つ情報、自治体が持つ情報がそれぞれあり、協定を結んで、一緒にやっていくことも一つの方策と考える。

Ｑ　作物の収穫期など、人材が期間的に足りないことが多い。ボラバイト（ボランティアとバイトの中間）という新しいスタイルも出てきているが、期間を絞って人を募集する際の良い手はないか。

⇒Ａ　ボラバイトの優良事例では、沖永良部島のばれいしょの収穫で活用されており、食堂を設けることで交流が活発になり、リピーターの割合が高まっていると聞いている。

　この場合、食堂を含め「宿泊施設の確保が大変。」との話があり、農山漁村振興交付金の農泊推進関連事業を利用し、「農泊」の取り組みを進めることで宿泊施設の整備が可能であることを紹介している。